

養護教諭の専門性を活かした横断的学習の試み：  
保健と道德の繋がりに着目して

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-02-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡邊, 睦美, 鎌塚, 優子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00024689">https://doi.org/10.14945/00024689</a>

# 養護教諭の専門性を活かした横断的学習の試み

—保健と道德の繋がりに着目して—

渡邊睦美\* 鎌塚優子\*\*

## Attempt of Cross-Disciplinary Learning Taking Advantage of Specialties of Yogo Teachers

- Focusing on the Connection Between Health and Morality -

Mutsumi Watanabe\*, Yuko Kamazuka\*\*

### 要旨

2020年度に全面実施となる新学習指導要領において、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の第一に挙げられているのが健康・安全・食に関する力である。これらの資質・能力をはぐくむために、教科等横断的な視点で教育の内容を組み立て、教科等間相互の連携を図っていくことが重要となってくることから、保健と他教科との横断的学習はより多く展開されることが期待されている。保健教育の内容は「生活」そのものが学びの対象となり、同様に道德教育も「生活」全体に関わるものである。考え、議論する道德によって、多様な価値観への気づきを得た子どもは、保健の授業で健康な生活を実現していくための知識や技能を身につけた上に、多様性・共生の視点に立った深い学びができるのではないかと考え、3年生の保健「毎日の生活とけんこう」とケースメソッド教授法を用いた道德との横断的学習の授業実践を行った。

実践を通して、保健学習で目指す目標、道德の授業で目指す目標をそれぞれ整理し、ねらいの共通点を意識して実践したことで、それぞれの教科で学ぶ良さが見られた。また、養護教諭の専門性を活かした教材や提示資料の検討、授業での子どもの思考の整理や健康についての知識の習得を促す関わりにおいて、担任と連携することで子どもに学びが生まれた。

キーワード：養護教諭 専門性 横断的学習

### 1 はじめに

平成29年3月に公示された新学習指導要領は、2020年度に全面実施となる。そこには、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと等を通して、各学校の教育活動の質の向上を図っていくことに努めるものとされている<sup>1)</sup>。筆者らは、昨年度、一昨年度にわたり小学校体育科保健領域（以下「保健」）を核として他教科との横断的学習による授業実践に取り組んできた<sup>2) 3)</sup>。新学習指導要領において、教科等横断的な視点に立って育成されるべきものとして、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力が示された。その第一に挙げられているのが健康・安全・食に関する力である<sup>4)</sup>。この資質・能力をはぐくむために、教科等間相互の連携を図ることが重要となることから、保健と他教科との横断的学習が展開されることが期待されている。

2年間の実践において、横断的学習を進めるにあた

り、それぞれの教科としての学びの押さえが曖昧にならないよう教科としての目標を念頭に置いて授業実践すること、「教材の共通性」に目が向いてしまうと教科としての目標が曖昧になってしまう可能性があることが課題として残った<sup>2) 3)</sup>。これらの課題を踏まえ、今回は「特別の教科道德」に着目し、「ねらいの共通性」という視点をもって、実践を行っていくこととした。

保健教育の内容は、体・心・命を扱う生きることにつながるものであり、「生活」そのものが学びの対象となると言える。そして、道德教育は人格形成の根幹に関わるものであり、子どもの「生活」全体に関わるものである<sup>5)</sup>。これら二つの教育の共通項として、生活そのものが学びの対象であること、そして、生活経験やその子のもつ能力に関係なく、友だちと同じ土台で話すことができることであると考えた。

また、現在の子どもの肥満・痩身、生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患の増加等、多様な課題が生じている。また、身体的な不調の背景には、いじめ、児童虐待、貧困等の問題が関わってい

\* 静岡大学教育学部附属静岡小学校

\*\* 静岡大学

ることもあり、子どもは、多様化・複雑化した現代的な健康課題を抱えている。このような中、養護教諭にはすべての子どもが生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力を育成する取り組みを、他の教職員や家庭・地域と連携しつつ日常的に行うことが求められている<sup>6)</sup>。その方法の一つが健康教育であると考えた時、個別のいわゆる現代的な課題やテーマに焦点化した教育についても、教科等横断的な学習を通じて必要な資質・能力を育成することが必要であると考えた<sup>7)</sup>。心身の健康の保持増進に関する教育を新学習指導要領によるカリキュラム・マネジメントで実現させていくには、「道徳」との繋がりはとても大きいと思われる<sup>8)</sup>。

このことから、「保健」と「道徳」においても横断的学習が展開できるのではと考え、実践することとした。

## 2 「道徳」から「保健」へ繋がる横断的学習～多様な価値観に触れる学び～

平成 27 年 3 月の学習指導要領一部改正により「特別の教科道徳」が位置づけられた。これにより、道徳教育は答えが 1 つではない道徳的な課題を一人一人の子どもが自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換が図られた<sup>9)</sup>。この「考え、議論する道徳」を実践する手法の一つとして「ケースメソッド教授法」がある。ケースメソッド教授法は、学習者が判断や対処を求められる模擬ケースを教材とし、討論しながら意思決定や問題解決の実践力を磨くことを目的として開発された討論形式の授業である。これにより期待される教育効果は様々なものがあるが<sup>10)</sup>、その中でも今回の横断的学習を構想するにあたって着目したものが「多様な価値観への気づき」である。

現在、共生社会の形成に向け、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育構築のため、特別支援教育を進めていく必要があると考えられている<sup>11)</sup>。通常の学級においても、発達障害を含む障害のある子どもが在籍している可能性があることを前提に、すべての教科等において一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援が必要であるという考え方である。子どもに起こっているメンタルヘルスの問題やアレルギー疾患の増加等を現代的な健康課題として考えると、子どもにも多様な人々がいるという視点をもたせていく必要があるのではないかと考える。中央教育審議会答申では「多様な人々が共に生きる社会の実現を目指し、一人一人が多様性を尊重し、協働して生活していくことができるよう、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』と関連付けながら、教育活動全体での一層の推進を図ることが求められる。」とされている。『見方・考え方』の具体として、保健領域では共生の視点に立った関わり方が考えられる。ケースメソッド教授法による道徳によって、多様な価値観への気づきを得た子どもは、保健の授業で健康な生活を実現していくため

の知識や技能を身につけた上に、多様性・共生の視点に立った深い学びができるのではないかと考えた。

## 3 授業実践

### (1) 実践方法

A 小学校の 3 年生 3 クラスの児童(男子 49 名、女子 47 名、計 96 名)を対象に、各クラスの担任と養護教諭のティームティーチングによる授業を行った。

本実践は、3 年生の 1 クラスで先行実施し、その約 1 か月半後に残りの 2 クラスで後行実施した。

### (2) 分析方法

3 クラスの全単元終了後の振り返りシートから、保健と道徳の横断的学習の価値につながるような言葉や、養護教諭の専門性につながるような言葉を抽出の観点として分析することとした。そこから、養護教諭の専門性を活かし、道徳と保健とを横断的に学習することの価値を見出したいと考えた。

### (3) 3 年「毎日の生活とけんこう」の授業計画

3 年生の保健学習の目標は、「健康の大切さを認識する」「健康によい生活を続けることについて理解すること」である<sup>12)</sup>。3 年生の子どもは、健康とは、外で元気に遊ぶこと、ご飯をしっかり食べられること、病気にならないことなど、「体が元気なこと」であると考えているだろう。なかなか「心が元気であること」には目が向かないと思われる。そこで単元の導入では、3 人の人物のイラストとその生活の様子を提示する。絵から受ける印象だけでなく、その人物の生活の様子を見ていくことで、健康とは、心と体の状態が関係していることや周囲の環境に要因があることに目を向けていこう。今までの保健学習の実践を振り返ると、一時間一時間のつながりの意識が弱く、子どもの思考もつながっていない授業になりがちであった。そこで子どもに生まれる「どうしたら心や体が元気になるのかな」という問いを全体に広げ、単元を通して子どもに目的をもたせて考えさせるようにする。また、保健学習は、知識・理解が重視され、講義形式の授業になりがち傾向もある。そこで本単元では、生活に関するアンケート結果を提示したり、蛍光塗料とブラックライトを使って自分の手の汚れに気付く実験等を行ったりする。また、養護教諭が担任とは異なる立場で専門的な話をする場面を設定する。そうすることで、子どもが実感を伴いながら健康についての知識を確実に身につけていくようにする。さらに、単元の中にケースメソッド教授法を活用した問題解決型討論形式の道徳を位置付け、集団生活の中で、多くの人が気持ちのよい生活を送るためには、一緒に生活する人それぞれの感じ方の違いにも目を向ける必要があることを実感できるようにする。話し合いや体験を通して身近な生活に

おける課題を発見し、解決していく中で、健康の大切さに気づき、健康に過ごすためにどうすればいいのかを考え、今後の生活に活かしていこうとする態度を身に

つけていくことを願い、本単元を構想し、表1のような授業の流れを計画した。

表1 授業の流れ

授業の流れ<発問>	
第①時 ◆ 健 活 と けん わん たし こう な し な 保 生	<p>&lt;この中で、だれが一番健康だと思うかな。&gt;</p> <p>・おじいさんは早寝だから健康的だね。 ・子どもは夜中までゲームやって目が疲れている。 ・みんな良いところあるけど全部じゃない。</p> <p>&lt;健康ってなんだろう。&gt;</p> <p>◎運動すること・続けること ◎残さず食べること・3食食べること・栄養バランス・好き嫌いをしないこと ◎病気ではないこと</p> <p>◎早寝早起きをする事・睡眠をたくさんとること ◎清潔であること ◎生活リズムを整える ◎何にでもやる気 ◎友だちがいる</p> <p>【養護教諭の話】健康とは心と体が元気なこと。</p>
第②時 ◆ 1 日 の 生 活 の 保 健	<p>&lt;みんなは前回、寝ること、食べること、運動について気にしていたね。その3つについてのみんなのアンケート結果を見てみよう。&gt;</p> <p>・ほとんどの人が毎日朝ごはんを食べている。 ・いつも外で遊んでいる。 ・寝る時間が遅いと起きるのが遅くなっちゃう。</p> <p>&lt;宿泊体験、みんな大丈夫？ 宿泊体験に健康に行くために、どんなことをしたらいいのかな。&gt;</p> <p>・早く寝るためには、早く宿題を終わらせたり、早くお風呂に入ったりするようにする。 ・寝ること、朝ごはん、運動は繰り返し。</p> <p>【養護教諭の話】寝ること、食べること、運動することは繰り返しになっている。</p>
◆ 体 の せい けつ の 保 健	<p>&lt;みんなは清潔であることが健康だって書いていたけど、本当に清潔にしているのかな。&gt;</p> <p>・休み時間に手を洗ってハンカチでふいているよ。 ・毎日ハンカチ換えなくてもいいんじゃない？使っていないんだから。</p> <p>&lt;使ったハンカチはどうなっちゃうのかな。ハンカチがどのくらい汚れているか見てみよう。(コンヒドリンの実験)&gt;</p> <p>・すごい汚い。 ・僕はいつも普通にハンカチ使っているけど、今見たら気持ち悪かったから使いたくなくなっちゃった。</p> <p>&lt;今度はみんなの手を見てみよう。普段の手洗いでどのくらい汚れが落ちているのかを見てみよう。(蛍光塗料の実験)&gt;</p> <p>・わー、すごい汚い。 ・きれいに洗ったつもりでも付いていたからびっくり。 ・親指のこのあたり(指と指の間を触りながら)</p> <p>【養護教諭の話】目に見えない菌があること。それが体に入ると病気になってしまうことがある。きれいなハンカチや洋服に取り替えて気持ちの良い生活をする、心も元気になる。</p>
◆ 道 徳	<p>&lt;3年1組の教室では、どんなことが起こったのかな。&gt;</p> <p>・リュウジくんは窓を開けたい。 ・マサヒロくんは窓を開けたい。 ・ミキさんがすごく困っていた。 ・ミドリさんも窓を開けたい。</p> <p>・席替えをしたらみんな落ちついてイライラすることがなくなるでしょ。 ・せめて半分だけ窓を開けさせてほしいって言う。</p> <p>&lt;3年1組は快適ではない？快適に過ごすためにはどうしたらいいのだろう。&gt;</p> <p>・席替えが一番マンなんじゃない？ ・そうすると暑がりのリュウジくんはいつも窓側にいるってこと？</p> <p>・冬とかちょうどいい季節になったら違う所でも。 ・季節によってあそこがいい、ここがいいっていうのはわがままじゃない？</p> <p>&lt;どうしてああでもない、こうでもないって話になっちゃったのかな？&gt;</p> <p>・だって人間だから、一人ひとりみんな違うと思うんだよ。 ・どれも良いところもあって悪いところもある。 ・結論が出ないね。</p>
◆ 保 健	<p>&lt;みんなの快適な教室についての考えが違うと思うんだけど、みんなにとって快適な教室ってなに。&gt;</p> <p>◎ゴミが落ちていない。 ◎換気。 ◎明るさ。 ◎病気がいない。 ◎一人一人が授業を頑張っている。</p> <p>&lt;窓を開けたらどうなるのか、実験を見てみよう。&gt;</p> <p>・両方窓を開けると煙がなくなった。 ・両方の方が煙がなくなるのが早かった。</p> <p>&lt;これは明るいけどどうかな。&gt;</p> <p>・明るすぎてまぶしすぎても授業に集中できない。 ・カーテンを閉める。 ・ちょうどいいくらいの明るさが集中できる。</p> <p>&lt;2つの実験をしてみたけど、快適な教室にするためにはどうしたらいいのかな。&gt;</p> <p>・明るすぎる時はカーテンでふさいで、暗すぎる時はカーテンでふさがない。 ・いつもの状態が慣れているから授業に集中できる。</p> <p>【養護教諭の話】空気が汚れていたり、明るすぎたりすると授業に集中できない気持ちになる。教室等の部屋の環境も体の元気、心の元気、健康のために大事であること。</p>

保健学習を始めるにあたり、この学習に関連するケースメソッド教授法を活用した道徳の実践を行った。

3年1組では2学期の間頑張ったご褒美と体が弱いメイさんが2か月ぶりに登校してくるお祝いを兼ねて、お楽しみ会をやることになった。クラスで一番ユーモアがあるアキラくんは、スバルくんとマリさんと漫才をやる予定で、みんなもアキラくんの出し物を楽しみにしていた。お楽しみ会当日の朝、一緒に登校するためスバルくんがアキラくんの家に着くと、アキラくんの顔は真っ赤。「アキラくん、熱があるんじゃないの?」とスバルくんが声をかけるとアキラくんは「うん、もしかすると・・・でもこのことは絶対に秘密だよ!」とスバルくんに言った。(鎌塚, 中村ら 2017)<sup>13)</sup>

### <ケースの概要>

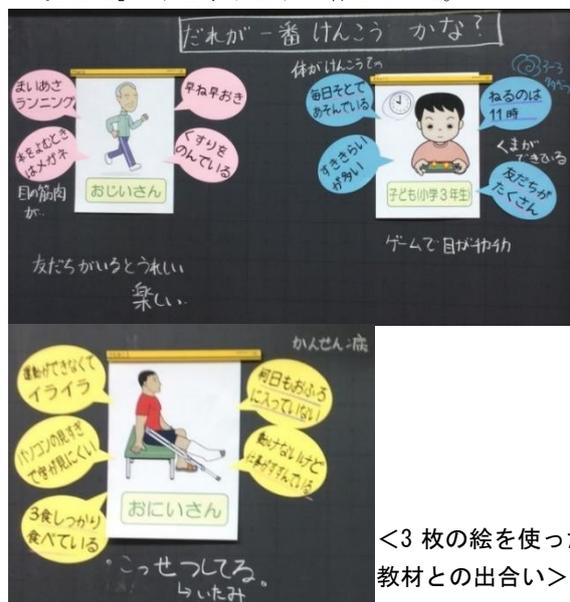
この実践では、体調が悪くなってしまった友だちのことを先生に伝えるか、それとも秘密にするか話し合った。授業前はほとんどの子どもが「伝える」という立場だったが、「友だちのために練習してきた主人公の気持ち」、「会を楽しみにしている友だちの様子」、「病気がうつってしまうかもしれない状況」、「仲良しの友だちから言われた『絶対に秘密だよ』という言葉」を根拠に議論する中で、どちらの立場に立てばいいのか分からないと判断に悩み、もやもやした状態で授業を終えた。子どもは、今までの生活経験や登場人物に対する心情を根拠に、友だちの健康状態の見取りや、その場に居合わせた時の判断・意思決定をしようとしていた。しかし、健康についての知識が足りないために、判断に迷ってしまうという実態があることが見えてきた。そこで、健康についての知識を活かし、子どもがこのような判断が難しい場面に出合った際に、自信をもって判断をしていくことや、話し合い・体験を通して健康の大切さを実感していくことを願って実践を行った。

#### (4) 保健 第①時「けんこうな生活とわたし」

始めに、子どもに3人の人物のイラスト(ランニングをしているおじいさん、夜10時までゲームをしている子ども、足を骨折している筋肉質な体格のお兄さん)を提示した。そして、「この中で誰が一番健康かな?」と投げかけた。子どもからは「おじいさん!」という声が一斉に聞こえた。理由を尋ねると「おじいさんは走っているから健康になる。」「子どもは夜10時までゲームをやって目が疲れている。」「お兄さんは骨折しているから元気がない。」などが挙げられた。この段階ではほぼ全員がおじいさんが一番健康だと思っていた。

そこで、イラストではわからない詳しい状況(おじいさんは「早寝早起き」「薬を飲んでいる」「本を読むときはメガネ」、子どもは「毎日外で遊んでいる」「友だちがたくさん」「好き嫌が多い」、お兄さんは「3食しか

り食べている」「仕事が進んでいる」「字が見にくい」「何日もお風呂に入っていない)」を付け加えていった。もう一度、「誰が一番健康?」と問いかけると、「3食食べていて、仕事をしっかりやっているお兄さんが健康。」「友だちがたくさんいて、毎日外で遊んでいる子どもが健康。」など意見が分かれ始めた。改めて誰が一番健康かを尋ねると、「おじいさん」に手を挙げる子が減り、「お兄さん」に手を挙げる子が増えていた。



<3枚の絵を使った教材との出会い>

次に、子どもに「私は健康だと思う人?」と投げかけ、挙手させると、健康だと思う子と、そうではないと思う子がおよそ半々に分かれた。ここで子どもに「健康って何だろう?」と問いかけ、ブレインストーミングを用いて、「健康」とはということなのか考えをたくさん出させた。ある程度考えが出たところで、班で同じような考えのものをグルーピングしていく活動を行った。それらに「運動」「睡眠」「食事」「清潔」などの名前をつけ、クラス全体で共有していった。最後に、養護教諭が子どもが出した言葉を使いながら、「運動」や「食事」は体の元気につながることに、「友だちがいっぱい」「みんなと仲良く」は心の元気につながることに、だから「健康は体と心が元気なこと」だということを押さえた。

3クラスのブレインストーミングの内容を比較すると、共通した内容は「運動」「睡眠」「食事」に関するものであり、それ以外はクラスによって様々であった。後行実施した2クラスの内、A組では「明るさ・光」といった第⑤時の生活環境の学習に関わる内容や、「コミュニケーション」「ストレス」「元気」「友だち」などの心に関する内容が多く書かれていた。B組では「目の健康」「排便」「薬」「体調」など、体に関する内容が出されていた。内容を見比べると、何が健康につながるのかというところから少しづつ違いが見られたが、これは一人一人の健康についての考え方の多様性が表れた結果と言えるだろう。子どもによって「健康とは?」のとらえ方が違

うということ、授業を構想する上での軸とすることで、多様な保健学習の展開につながると考えられる。



<授業の様子>

(5) 保健 第②時「けんこうな1日の生活のしかた」  
第①時に子どもが健康について付箋に書いて分類したものを模造紙にまとめ、第②時の最初に提示した。

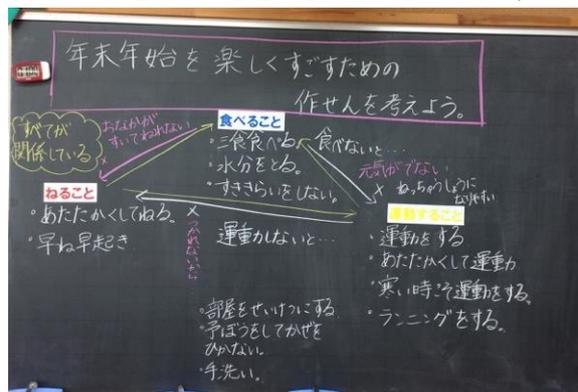


<本単元の軸となる“健康の模造紙”>

模造紙を見せながら、子どもに「健康ってどういうことだったかな?」と投げかけると、「体の調子がよいこと。」「体も心も元気なこと。」などの発言が出た。しかし、教師は第①時の振り返りシートから、健康は体だけでなく心も元気であることという押さえが十分ではなかったと感じていたため、「友だちがいる」と書いた付箋に注目させ、「友だちがいると何で健康なの?」と投げかけた。すると、「友だちは遊んでくれるから体が元気になる。」「友だちとおしゃべりをする心も元気になる。」「友だちがいなくて心が独りぼっちになってしまう。」などの意見が出され、心が元気なことも健康にとって大切であることを押さえることができた。

模造紙を見て、ある子が「リズムが何で健康なのかかわからない。」と発言した。教師がその意見についての考えを求めると、子どもからは「8時に寝て6時に起きるとか。」「やることの時間を決める。」「1日の過ごし方。」といった意見が出された。さらに、それらをするのが何で健康なのかと尋ねると、別の子から「ダメな生活からいい生活にするためだ。」という発言が出され

た。その発言を聞いた他の子どもからは、「ダメな生活ってどういう生活?」という疑問が投げかけられ、そこからゲームをやる時間や就寝時刻、食事について次々と説明がされた。この話題の中で、事前に行った睡眠と食事、運動についてのアンケートの結果を棒グラフにしたものを提示した。食事について、「朝ごはんを毎日食べていますか?」という質問に対し、ほとんどの子が「毎日食べる」と回答していた。運動について、「晴れた日は外で毎日遊んでいますか?」という質問に対しては、毎日遊んでいる、遊んでいないに結果が分かれた。睡眠については、学校のある日とない日それぞれの就寝時刻と起床時刻が大きく違っていた。グラフを見て、「学校のある日とない日でバラバラ。寝る時間が遅くなっている。」という気付きをもった子もいた。授業をやった時期は、宿泊体験前だったため、寝る時間が遅くなっている状況に触れながら「宿泊体験に健康に行くために、どんなことをしたらいいのかな?」と投げかけ、宿泊体験に向けての健康チェックカードに考えを書いていった。自分たちのアンケート結果と宿泊体験までの生活を結び付けることで、保健学習を自分事として考えられるようにした。養護教諭は子どもが健康チェックカードに書いた内容をもとに、食事、運動、睡眠の3つのつながりが分かるように板書しながら、その関係性をまとめていった。「朝ごはんを食べるためには早く起きる。」「朝ごはんを食べると運動もしっかりできる。」「運動すると疲れてすぐ寝てしまう。」などの発言が出る中、寝ること、食べること、運動することは「繰り返す」という発言が出てきたため、その言葉で食事、運動、睡眠の調和の取れた生活が健康に大切だということを押さえることができた。



<子どもが“健康の大三角形”と表現した板書>

後行実施のクラスでは、「今の健康と将来の健康ってどういうこと?」「生活リズムを整えるって何?」という子どもから出た問いを考える中で、「寝る時間や起きる時間が遅くなったりしない。」「それが睡眠や食事につながっている。」「ぐるぐる回って繰り返す。」などの、食事、運動、睡眠の調和に関する発言が、子どもから出てきた。もう1クラスでは「年末年始を楽しく過ご

すための作戦を考えよう」という投げかけに対し、女の子の「3 食食べないと生活リズムが崩れちゃう。」と発言したことから生活リズムの話題につながり、「寝ること、食べること、運動することは全部つながっている。」という発言が出てきた。それらの発言を意図的に板書した黒板を見て、子どもから星座の呼び方になぞらえて「健康の大三角だ！」という言葉が飛び出した。

#### (6) 保健 第③時「体のせいけつ」

授業の始めに、自分たちが健康についてまとめた模造紙に注目するよう促した。そこに書かれている「清潔」という言葉を指し、「みんなは本当に清潔にしているのかな？」と問いかけた。すると、トイレの後や休み時間に手を洗っているといった声が聞かれる中、「一日一日ハンカチって換えなくてもいいんじゃない。使っていないんだったら。」「使っていないでも換えなきゃダメなんじゃないの。」という考えのズレが生まれた。そこでハンカチは持っているけど使っていない子と、ちゃんと使っている子がそれぞれどのくらいいるか尋ねてみると、クラスの 1/3 が使っていないことがわかった。使っている子にどのような時に使っているか聞くと、トイレで手を洗った時、汗を拭く時、給食をこぼした時、鼻血が出た時などの話が聞かれた。子どもは使ったハンカチは汚くなると思っている。そこで、使ったハンカチがどのくらい汚れているかを見るために、ニンヒドリン反応実験を養護教諭が行った。



＜ハンカチのニンヒドリン反応実験の様子＞

ニンヒドリンはタンパク質(アミノ酸)や尿素などに反応して青紫色に発色する薬品である。この性質を使いハンカチなどに付着した皮膚の汚れ、汗などを検出することができる<sup>14)</sup>。青紫色に染まったハンカチを見た子どもは、「すごく汚い。」「見えない汚れがたくさんあった。」と発言した。さらに、「ハンカチがない時に服で拭く。」という声を全体に広げ、「服で拭くって言うことは？」と尋ねると「服が汚れちゃう。」と発言した。今回の実験結果をハンカチの汚れだけでなく衣服の汚れと結び付けた子どもは、ハンカチや衣服を清潔に保つ必要性に気付くことができたと思われる。

続けて、「今度はみんなの手を見てみよう！」と投げ

かけ、蛍光塗料とブラックライトを使用した手の洗い方実験を行った。“魔法のクリーム”と称した蛍光塗料を子どもの手にのせ、十分手に伸ばした後、普段通りの手洗いを行った。その後、ブラックライトを手当てて、白く残っているところがあるかどうか、自分の目で確かめた。感想を聞くと、「洗う前よりは汚くなかったけど、まだ汚れている部分があった。」「ちゃんときれいに洗ったつもりでも付いていたからびっくりした。」などが聞かれた。養護教諭からは、目には見えない汚れに病気のもとになる菌が隠れていることがあり、それによって病気になってしまうことがあることや、きれいなハンカチや衣服に取り換えて毎日気持ちの良い生活をする、心も元気になることを伝えた。

後行実施のクラスでは、蛍光塗料とブラックライトを使用した手の洗い方実験に代わって、手形寒天培地を使った手の汚れ実験を行った。2 クラスそれぞれで条件を決めて行ったが、あえて汚れた手の状態にしたもの(砂遊びの後、ほこりを触った後)と、手を洗った状態のものとの差は歴然で、子どももその違いを見て、「手洗いがとても大切なことが分かった。」「こまめな手洗いが必要」などの感想を伝え合った。

#### (7) 道徳 第④時「かいてきな教室」

ケースメソッド教授法を活用した道徳では、事前に子どもにケース(子どもが頻繁に遭遇するであろう事例をもとにした多様な課題が含まれた教材)とワークシートを配付し、ケースを読んで自分の立場や考えをもった上で授業に臨むようにする。そして、授業の中で課題や解決方法を見出していく過程を経験していく。

残暑が厳しい9月、3年1組の教室では暑がりのリュウジくんが運動場側の窓を全開していた。アトピー性皮膚炎のミドリさんは、窓から砂埃が入ってくる度にタオルで拭いている。ミキさんは、几帳面で定規で図形を描く時などに風が吹くとイライラしてしまう。この教室は道路にも面しているため、騒音も聞こえてくる。マサヒロくんは大きな音が苦手なので窓を閉めてしまう。窓を閉めると教室の中は暑くなるが、マサヒロくんはぬらしたタオルを首に巻いている。クラス委員のナミさんは、リュウジくんにマサヒロくんは我儘だと相談されたが、自分自身は窓を全部開けなくても我慢できると考えていた。(鎌塚、中村ら 2017)<sup>13)</sup>

#### ＜「かいてきな教室」のケースの概要＞

ワークシートの設問は、自分がこのクラスのメンバーだったら誰の立場に近いか、この場面でどんなことを考えるか、の2点である。授業では「快適な教室に対する感じ方や考え方の違う5人の登場人物の立場に立って、みんなにとって快適な教室環境にするためにど

うしたらいいのか対話することを通して、相手の状況や感じ方、考え方を受け止め、その思いを大切にすることができるとして、その思いを大切にすることを目標に実施した。

授業当日も残暑厳しい日だったため、授業前にあえて教室の窓を閉め、ケースと同じ状況を体感させた。子どもから「暑い。」「窓開けていい?」などの声が出てきたところで窓を開け、教師は「3年1組ではどんなことが起こったのかな?」と投げかけた。さらに「アトピー性皮膚炎のミドリさんはなんで窓を閉めたいの?」「他に困っている人はいる?」と質問し、登場人物の状況を確認した。A男は「席の問題。席替えをしようって誰かが言えればいい。」と発言した。「なんでA男くんは席替えをしようと思ったと思う?」と全体に問いかけたところ、子どもからは賛成と反対両方の意見が出された。「3年1組は快適ではない。」と思っていることを確認した上で、「快適に過ごすためにはどうしたらいいんだろう?」と投げかけた。子どもから出された「席替えをする。」「半分窓を開ける。」「首にタオルを巻く。」「廊下の窓を開ける。」の考えを板書し、自分の考えと近い立場のところにネームプレートを貼るようにした。その立場にした理由を聞いた際に、「席替え」という意見が一番多かったことから、「そうすると暑がりのリュウジくんはいつでも窓側にいるってこと?」「みんなそれで納得できる?」と子どもの考えを揺さぶる質問を投げかけた。子どもからは「季節によってあそこかってわがままだと思う。」「考えが変わった。」など口々に意見が出された。ここまで考えてきたところで「どうして意見が分かれてしまったんだろう?」と問いかけた。すると、「だって人間だもん。」「一人ずつ違う。」「みんな考えが違う。」等、意見を一つにまとめていくことの難しさを感じたという意見が出された。



<授業の様子>

この道徳の授業では、アトピー性皮膚炎の子、暑がりの子といった様々な立場の子がいることを疑似体験しながら、登場人物それぞれの気持ちを考えていった。そして、その子の気持ちに寄り添えば寄り添うほど、全員にとっての「かいてき」が難しいということに気付いていった。今回の授業はこのように結論が出ないまま終了となったが、ここもケースメソッド教授法のねらいの一つであると考えている。はっきりしないまま

終わり、授業後も話し続けることで、今後似たようなことが起こった時、問題解決の思考が生まれてくる。

今回の授業を通して、子どもには、同じ教室にいる一人一人の感じ方が違うという「多様な価値観への気づき」があったことが振り返りシートから分析できた。ある女の子は振り返りシートに「“かいてき”をどうしてもほうほうがまだないからわからない。」と書いていた。このように快適の根拠となる知識がなかったことも、結論が出なかった一つと考えられる。その根拠を得るために、また根拠を得た上で、ケースメソッドで感じた多様性の視点で気持ちの良い生活環境について考えていけるよう、次時の授業へつなげていった。

- ・たくさん良い方法がありました。反対の子でもよい意見がたくさんありました。
- ・自分がいいのいけんをきいて、分かりあって、自分がいいの人の気持ちにもなれるから、私はほかの人のいけんをきいた方がいいと思いました。
- ・一人一人が言いたいことを相手につたえたり、その相手の思いを「分かりあう」ということです。
- ・みんなちがう考え方があることを知ると、ほかの子たちのことも考えられるようになりました。
- ・あいての気持ちをしっかりかんがえるのが本当にたいせつだと分かった。

#### <授業後の振り返り(一部)>

#### (8) 保健 第⑤時「気持ちのよい生活かんきょう」

授業前の休憩時間から火をつけた線香を教室に置き、教室の前半分の電気を消しておくという環境を作っておいた。また、太陽に見立てたスポットライトを運動場側の窓上部にセッティングした。そして、「空気の入れ替え実験や明るさによる見え方実験を行い、快適な教室にするために大切だと思うことを話し合ったり、健康について今まで学習してきたことを振り返ったりすることを通して、健康に過ごすために自分ができることは何なのかを考え、実践していこうとする思いをもつことができる」ことを目標に授業を実施した。子どもは今の教室環境について、「いいにおい。」「臭い。」「ずっと嗅いでいたら鼻が痛くなった。」などの反応をした。「線香の匂いが好きな人と嫌いな人がいるけど、なんでそんなに分かれちゃうんだろう?」と問いかけると、「一人一人心が違う。」「好き嫌いがある。」という発言が出てきた。そしてさらに、すべての電気を消すという環境を作ると、「暗い。」「暗くない。」と両方の声が聞かれ、むしろ電気を消した状況で授業をしたという反応も見られた。しかし、「暗いところで字を書いたら目が悪くなっちゃう。」「暗くすると黒板が見にくい。」と発言する子もいた。教室を通常の状態に戻していくと、ある女の子が、道徳で使用したケースの資料を持ちながら、「これって快適な教室につながって

るんだよ。」と、前時の授業の内容に絡んだ発言をした。そこで道徳の授業でどのようなことをやったか思い出させるような投げかけをした。子どもが「砂ぼこり」「大きな音」「アトピー」などを思い出したところで、「みんなの“快適な教室について”が違うと思うんだけど、みんなにとって快適な教室って何だろう？」と投げかけた。子どもからは「電気が明るい。」「換気をしている。」「暑さをなくす。」などの発言が出てきた。また、「暗いと気持ちが暗くなり、授業に集中できない。」といった心情面についての発言もでてきた。

空気の入替え実験では、実験用の段ボールハウスを2つ用意し、その中を線香の煙で充満させ、窓を1ヶ所開けた場合と、2ヶ所開けた場合で、ハウスの中の煙の流れの違いを見た。子どもは窓を2ヶ所開けた方が煙が早くなかったことに気付いた。また、明るさによる見え方実験では、強い光源となるスポットライトで教室を照らした。つけた瞬間、子どもからは「まぶしい。」という声が聞こえた。そして「太陽だ。」と声に出す子もいた。子どもにどう思ったか尋ねると、「暗くてもダメ。明るすぎてもまぶしくて授業に集中できない。」「カーテンを閉める。」といった発言が聞かれた。



＜空気の入替え実験＞

2つの実験をした後、改めて「快適な教室にするにはどうしたらいいだろう？」と子どもに投げかけた。子どもからは「明るすぎたらカーテンでふさぐ。」「電気をつけて、換気をする。」などの意見が出された。最後に養護教諭は、「空気が汚れていたり明るすぎたりすると、頭が痛くなったり、授業に集中できなかったり、暗い気持ちになったりすること。教室などの部屋の環境も、体の元気、心の元気、健康のために大事であること。でも感じ方も人それぞれ違うので、健康のために大切にしなければいけないことがわかった上で、その時々で何を大切にしなければいけないかも考えていかなければいけないこと。」について話をした。この保健の授業では、部屋の明るさや空気の入替えの実験で、子どもはそれぞれの感じ方の違いを表現していた。実験を通して自分事として考えることができ、そのことによって自分たちにも感じ方の違いがあることに

気付くことができたと思われる。

この授業の最後の場面で、子どもに、今まで学習してきたことも含めて健康について考えたこと、健康に過ごすために大切だと思うことについて、振り返りシートを書かせた。振り返りの一部は以下の通りである。

- ・体も元気、心も元気ということがしあわせにつながっていることが分かってよかったと思う。
- ・明るさのことやせいけつ、食事、うんどう、ねる・おきるなどのことをきっちりやればけんこうにもなれるし、心もきもちよくなれるから、そのことが大切だとおもった。

＜単元終了後の振り返り(一部)＞

4 横断的学習によって多様な価値観に触れる学び  
～A子の変容から～

勝気で活発なA子は、その勝気さが故に相手に対する言葉遣いが強くなってしまい、友だちとトラブルになることもある。しかし、クラスで早退する子が出た時などには、その子の荷物の準備を誰よりも早く始める姿など、A子の優しさが感じられる行動も見られる。ケースメソッド教授法を用いた道徳「あの子がいるから大丈夫」では、クラスの中で何かあった時にいつも助けてくれるマモルくんが、代わりにやった給食当番で1年に1回しか出ない五目ラーメンを担当し、それをこぼしてしまうというケースについて考えた。マモルくんがどんなことを思っていたかについて、「悲しい。」「嫌な気持ち。」などの考えを出し合っている中、A子は別の視点から「給食当番も少しは働いたらいいと思う。」と発言した。しかし、「私がこのクラスの一人だったらどうする？」と投げかけると、A子は「(マモルくんと一緒に拭いてあげる。)」と発言していた。A子はきつい言い方をしてしまうこともあるが、心の中では、友だちのことを考えられる優しい子であるととらえた。

そんなA子の学びを振り返りシートをもとに分析した。第①時の振り返りには「けんこうはゆめにつながる。こと。」という抽象的な言葉が一言書き記されており、第②時の振り返りには「早ね早おきをがんばる。あいさつをする。」という、これからの生活でやっていきたいことを簡潔に記していただけだった。しかし、第③時の振り返りになると「しっかりあらったつもりでもよごれがついているから、とくにきをつけてあらう！なによりけんこうが大事だからけんこうに気をつける。」と、本単元の軸となる「健康」につなげる振り返りを書いてきた。全単元が終了したところで、子どもに①養護教諭が入って授業をやった良さ、②ケースメソッド教授法を活用した道徳をやったこと、③保健の授業をやっている道徳の授業のどんなことを思い出したか、についてワークシートに記入させた。A子は、①では「健康に近づけた気がします。3食食べるように

家ぞくに言ってみたら父も食べるようになりました。(一部省略)」と書いていた。保健学習によって自分だけでなく家族の健康にも目が向き、家族を巻き込んでいくことができたのは、A子に見方・考え方の広がりがあったからではないだろうか。また②では、「人の気持ちを考えてみるのが大事だなあとと思います。(中略)自分にじしんがなくていえない言葉もいえるようになりました。(省略)」と書いていた。友だちへ強い口調で言うってしまうA子は、たくさんの立場で相手の気持ちを考え、多様な価値観に触れることを通して、自信をもって周囲と関わっていくことのできる成長のきっかけとなったのではないかとと思われる。さらに③では、「ほけんでは気づかなかったことを、どうとくをやっている気づいたことがあってよかったです。」と書いていた。保健と道德の横断的学習をすることによって、保健での学びは、知識を習得し自分事として考えるところから一歩進み、周囲には様々な人がいるという視点に立って、多様な価値観で健康づくりを考えていくことのできる学びになるのではないかとと思われる。

## 5 成果

本実践を通して次のような成果が見えてきた。

1つ目に、保健学習で目指す目標、道德の授業で目指す目標をそれぞれ整理し、ねらいの共通点を意識して実践したことで、それぞれの教科で学ぶ良さが見られたことである。最終時まで終了したところで子どもは全単元の振り返りをした。その中で、子どもに保健

の授業をやっている道德の授業のどの部分を思い出したか、振り返りシートを記入させた。それらを保健と道德の横断的学習の価値につながるような言葉を抽出の観点としてKJ法を用いて分析したところ、18のコードが抽出された。さらにそれらは5のカテゴリーに分類された。(以下( )内にコード数を示す。)"多様な価値観への気づき(7)" "他者への思い(6)" "横断的学習の意義(2)" "思考の継続(2)" "自分への自信(1)"であった。振り返りシートを見てみると、今回の保健学習で目指す目標(健康な生活についての知識・理解など)の記述とともに、特徴的だったのは「他者への視点」「人それぞれ違うこと(多様な価値観)」「気持ち・心の元気」について書かれていたことである。これらは道德での学びがあったからこそ出てきたものではないかと考える。それはまた、道德の授業で様々な意見を出し合い、多様な価値観に触れながら「考え、議論」することができていたからではないかと思われる。保健、道德の学習それぞれが教科の目標に向かって授業を行っていくことについては、横断的学習においても変わらない。そして、インクルーシブ教育の視点が益々重要となってくる中で、保健学習において「多様性・共生」という見方・考え方は大切にしていかななくてはならない。ケースメソッド教授法のように、ケースの疑似体験によって学習の成果を実践に活かすことが推進されるものと予想される<sup>15)</sup>。道德の目標を踏まえた上で保健学習が活きる、また、保健の目標を踏まえた上で道德の学習が活きる授業づくりをしていくことが大事である。

表2 保健の授業をやっている道德の授業のどの部分を思い出したか

カテゴリー	コード	N=18(%)
多様な価値観への気づき	人にはいろんな意見がある(3)。全員の意見を取り入れるのは難しい。いろんな人の話を聞いたらすごく勉強になった。気持ちをまとめるのは大変。みんなもやもやしていた。	7(38.9)
他者への思い	人の気持ちを考えてみるのが大事(2)。人の気持ちを考えて大切にしないといけない(2)。みんなのことを考えること。みんな幸せなのが一番いい。	6(33.3)
横断的学習の意義	保健で気づかなかったことが道德をやって気づいた。環境が悪い教室をどうすれば快適になるか考えることができた。	2(11.1)
思考の継続	みんなが快適に過ごせる教室にすることを考える(2)。	2(11.1)
自分への自信	自分に自信がなくて言えない言葉も言えるようになった。	1(5.6)

2つ目に、単元構想を作る段階での養護教諭の専門性を活かした教材や提示資料の検討、授業での子どもの思考の整理や健康についての知識の習得を促す関わりにおいて、担任と連携することで子どもに学びが生まれたことである。子どもに担任と養護教諭と一緒に授業をやった点について、振り返りシートに記入をさせた。それらを養護教諭の専門性につながるような言葉を抽出の観点としてKJ法を用いて分析したところ、58のコードが抽出された。さらにそれらは

5のカテゴリーに分類された。(以下( )内にコード数を示す。)"養護教諭が話す意義(22)" "実験について(12)" "授業で感じる気持ち(12)" "健康に対する意識の高まり(7)" "授業の内容(5)"であった。養護教諭が授業に関わる意義は大きいと思われるがA県の養護教諭の保健学習の実施率は年々減少傾向にある<sup>16)</sup>。日常の保健室経営を基本としつつも、子どもの健康を支える一つの手段として、学校の実情に応じて実践していくことが大切であると考えられる。

表3 担任と養護教諭が一緒に授業をやってよかったところ

カテゴリー	コード	N=58(%)
養護教諭が話す意義	わかりやすい(11)。詳しく説明してくれた(7)。わからないことがわかるようになった(2)。知らなかったことを知れた(2)	22(38.2)
実験について	実験をやったとき、楽しくできたからよかった。(4) 実験がわかりやすかった。(3) 実験をしてくれてよかった。(3)色々な実験をしたからたくさん考えることができた。色々実験もできてよくわかった。	12(29.4)
授業で感じる気持ち	授業が楽しくなる(3)。うれしかった(3)。やる気が出る。安心して聞ける。真剣に聞けた。面白かった。毎日健康でいるには“えがお”も大切だと聞いて、やってみると、気持ちがうれしくなった。早寝早起きをきちんとやろうという気持ちを持てた。	12(23.6)
健康に対する意識の高まり	たくさんの大切さを学べた(3)。健康がどれだけ大事なのかわかった。体の大切さが知れた。健康に近づけた気がする。3食食べるように家族に言ってみたら父も食べるようになったので、勉強してよかったと思った。	7(8.8)
授業の内容	健康ってどういうことかがとてもよくわかった(2)。保健のことがよくわかった。いつも先生が言っている「窓を開けて」ということの意味がわかった。人の体のこととか色々勉強するから楽しかった。	5(8.8)

## 6 課題

課題としては次のようなことが挙げられる。

今回の保健と道徳の横断的学習は、ケースメソッド教授法による道徳によって、多様な価値観への気づきを得た子どもが、保健の授業で健康な生活を実現していくための知識や技能を身につけた上に、保健の教科特有の見方・考え方として多様性・共生の視点に立った深い学びができるのではないかと考え、実践した。しかし、健康な生活についての知識を習得させることは常に意識していたものの、保健の1時間の授業展開として見たときに、保健での学びを自分事としてとらえるためには、特に生活環境の学習において、「みんなのために」というだけでなく「自分の健康のために」という視点でも考えさせる場が必要だったかもしれない。

新学習指導要領によって行われていく保健学習とケースメソッド教授法を活用した道徳との横断的学習は、子どもによって有意義な学びとなっていくと思われる。しかし、ケースメソッド教授法そのものをとってみても、教師側の視点に立った実践事例は報告されているが、子ども側に立った視点での実践とその意義についての報告はまだ少ない。現代的な諸課題に対応して子どもに求められる資質・能力をよりよくはぐくんでいくために、実践を積み重ね、意義を検証していきたい。

なお、倫理的配慮として、本文中の写真については、本人及び保護者の許諾を得て掲載している。

### <謝辞>

本研究を進めるにあたり、静岡大学教育学部附属静岡小学校の職員の皆様には多大なる御協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

### <引用文献>

- 1) 文部科学省：小学校学習指導要領，2017.3
- 2) 渡邊睦美，鎌塚優子：養護教諭の専門性を活かした保健と他教科の横断的学習の試み，静岡大学教育実践総合センター紀要，2016
- 3) 渡邊睦美，鎌塚優子：養護教諭の専門性を活かした保健と社会科の横断的学習の試み，静岡大学教育実践総合センター紀要，2017
- 4) 再掲1)，p53
- 5) 再掲1)，p26
- 6) 文部科学省：現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～，2017.3
- 7) 文部科学省：教育課程企画特別部会 論点整理，2015.8
- 8) 文部科学省：教育課程部会 総則・評価特別部会(第4回)配付資料 3-1 健康・安全に関する育成すべき資質・能力について，2016.1
- 9) 再掲1)，p9
- 10) 岡田加奈子：教師のためのケースメソッド教授法，少年写真新聞社，2011.8
- 11) 中央教育審議会：幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について(答申)，2016.12
- 12) 文部科学省：小学校学習指導要領解説体育編，2008.6
- 13) 鎌塚優子他：ケースメソッドで考え、議論する道徳教育に活用するケース集 2017 年度版，静岡大学教育学部，2017
- 14) 少年写真新聞社：保健実験の手引き ニンヒドリンで調べてみよう
- 15) 佐野享子：ケースメソッド学習の効果を高める原理，筑波大学大学研究センター，2013.5
- 16) 静岡県養護教諭研究会：養護教諭に関わる実態調査，2017.3